

生物の危機

を知らう!!

9班

小田切 日和

小杉 晃子

荒井 七彩

渥美 結子

佐藤 彩那

網代 有希

生物の危機と課題

1 絶滅危惧種とは

生物の生息している数が減ってしまい絶滅してしまうかもしれない生物種のことをいい、絶滅危惧種は動物、植物、魚など様々な生物が絶滅危惧種とされています。また、絶滅のおそれのある野生生物は国際自然保護連合のレッドリストにのっています。今もなお絶滅危惧種は増え続けています。

2 外来生物(外来種)とは

もともとその地域に生息していなかった生物が人間の活動によって意図的・非意図的に持ち込まれた生物のことをさします。外来生物はその地域にもしもいなくなるとその地域に害が発生したり、生態系を崩すリスクがある。

3 特定外来生物とは

外来生物のうち特に人間の健康や生活、生命、身体、生物の生態系、農林水産業に害を及ぼしたりそのリスクが更に高い外来生物のことを特定外来生物という。

課題が深刻な地域・原因

絶滅危惧種

《地域》

- ・ インドネシア 
- ・ アメリカ 
- ・ オーストラリア 

《原因》

- ・ 土地の開発
- ・ 土地の汚染
- ・ 外来種の持ち込み



外来生物

《地域》

- ・ 日本 
- ・ ニュージーランド 
- ・ イギリス 
- ・ 韓国 

《原因》

- ・ ハットの遺棄
- ・ 誤って飼育されていた動物が放たれる。
- ・ 人や物の移動に付着した虫が他の地域に入ってしまう。

特定外来生物

《地域》

- ・ 外来生物とほぼ同じ ←
- 《特定外来生物》※日本
- ・ フクロギリス
- ・ タイワンサル
- ・ エゾモモカ

《原因》

- ・ 外来生物と同じ ←

《現状》

- ・ 人の健康へ影響を及ぼす。
- ・ 農林業や漁業への悪影響を及ぼすことも考えられる。

今、日本でどれだけペットが捨てられている？

1. 現状 (全国の動物愛護センター等への受け入れと処分の数) (犬のみ)

(1) 受入 32,555

飼い主から: 3,300 (10.1%)

所有者不明: 29,225 (89.8%)

(3) 過去10年間の受入・処分数の推移

年 度	受入数	処分数	
		返還・譲渡数	殺処分数※
平成 22 年度	85,166	33,464	51,964
平成 23 年度	77,805	34,282	43,606
平成 24 年度	71,643	33,269	38,447
平成 25 年度	60,811	32,092	28,570
平成 26 年度	53,173	31,625	21,593
平成 27 年度	46,649	29,637	15,811
平成 28 年度	41,175	30,500	10,424
平成 29 年度	38,511	29,955	8,362
平成 30 年度	35,535	28,032	7,687
令和元年度	32,555	27,126	5,635

(2) 処分 32,761

返環: 10,814 (33.0%)

譲渡: 16,312 (49.8%)

殺処分: 5,635 (17.2%)

2. 原因

① 子犬の処理に困る

② 世話が出来なくなった

③ 近所からの苦情

④ 病気やけが

⑤ 事故をおこした

⑥ その他

※殺処分の理由は①治療の見込みがない病気や攻撃性がある等 ②①には該当しないが譲渡先の確保や適切な飼育管理が困難 ③受入後の死亡が含まれる

環境省HP統計資料「犬・猫の引き取り手が見つからない動物の収容並びに処分状況」より
→ 83%の犬は返還・譲渡されているが17%の犬は殺処分されている。

日本の生物多様性の危機

第1の危機

開発や乱獲による種の減少・絶滅・生息・生育地の減少・鑑賞や商業利用のための乱獲・過剰な採取や埋め立てなどの開発によって生息環境を悪化・破壊するなど、人間活動が自然に与える影響は多大です。

第2の危機

里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下・二次林や採草地が利用されなくなったことで生態系のバランスが崩れ、里地里山の動物が絶滅の危機にさらされています。また、シカやイノシシなどの個体数増加も地域の生態系に大きな影響を与えます。

第3の危機

外来種などの持ち込みによる生態系のかく乱・外来種が在来種を捕食したり、生息場所を奪ったり、交雑して遺伝的な攪乱をもたらしたりしています。また、化学物質の中には動植物への毒性をもつものがあり、それらが生態系に影響を与えます。

第4の危機

地球環境の変化による危機

地球温暖化は国境を越えた大きな課題です。平均気温が1.5~2.5度上がると、氷が溶け出す時期が早まったり、高山帯が糸雀たり、海面温度が上昇したりすることによって動植物の20~30%の絶滅のリスクが高まるといわれている。

生物に対する知識の差

解決方法

例) 外来種

知識の浅い人が悪意なく
近くの川に逃していたり
捨ててしまったりする人が
少しでも減るように
学生を対象とした生物に
関する問題を作成し
知識を増やしてもらう。

活動したこと

対象である学生が生物に
対してどのくらい知識が
あるか調べるアンケートをした。

これから

学校生活で楽しみながら
知識を増やしてほしいので
お弁当の時間に友達と問題を出しあえるように問題を
印刷したふりかけを
商品化したい。

殺処分をゼロにしていくためには・・・

動物を飼いたい人は、動物愛護センターの譲渡会に参加してみる。

↓その前に

何があっても最後まで一緒に暮らせるかをもう一度考えてください。

やむを得なく飼えなくなった場合は、外に放すのではなく、
家族や知人に相談してください。

飼い主の身勝手な行動は許されません。

動物を飼うことの責任をもう一度考えましょう。

参

考

文

献

リ

ズ

ト

A

- <https://www.smart-tech.co.jp>
絶滅危惧種とは?原因と身近な対策
- <https://www.wwf.or.jp>
外来生物(外来種)問題
- <https://www.weblio.jp>
特定外来生物とは何?

B

- <https://gooddo.jp/magazine/land-biodiversity/ endangered-species/8296/>
陸上絶滅危惧種が増える原因とは?対策についてを考えよう
- <https://www.env.go.jp/council/former2013/3wild/y133-04/ref21.pdf>
海外の主要国における外来生物対策に資する法律と主な規制内容
- <https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3557.html>
外来生物(外来種)問題

C

- <https://gedge.jp/reports/satusyobun/>
日本における犬猫の殺処分の実態～現状と先端的な解決策

D

- https://www.biod.go.jp/biodiversity/about/biod_crisis.html
生物多様性に迫る危機

F

- <https://www.pref.kanagawa.jp>
神奈川県動物愛護センター